私の思い出

沢渡　篠崎之俊

78年の足跡を振り返って、私の小さい頃は父が国鉄マンだったので、４歳頃は松本の蟻ヶ崎の国鉄官舎に住んでいました。其の頃は毎日父の帰りを待って、縄手通りへ自動車のオモチャを買いに連れて行ってもらいました。其の後、幾つ位か神城に帰って来ました。当時は神城尋常高等小学校と言って居りました。

小学校二年生の頃だと思います。大東亜戦争が始まりました。昭和十六年十二月八日でした。其の頃は今の様にテレビは無く、ナナオラと言う、ピーピーと雑音が入って良く聞けない様なラヂオしか有りませんでした。朝、臨時ニュースが入って「大日本帝国は本日未明アメリカに対して宣戦布告」をしたとの報でした。子供心に日本がこんな大きな国と戦争を始めて、これは負けだなと思いました。でもそんな事を口にはできませんでした。非国民で、すぐ罰せられる位でした。最初のうちはハワイを始め次々と勝進み、万歳々々の毎日でお宮への旗行列で賑やかでした。其のうちシンガポール、硫黄島と次々に玉砕し風向きが悪くなって来ました。

其の頃から国民の生活も大変になって来ました。沖縄の玉砕、本土空襲がはげしくなり、都会から田舎え疎開が多くなって来ました。貞麟寺にも大勢の子供達が親から離れ疎開して来て居りました。自分の家にも東京の薬屋さんが越して来て居ました。薬屋さんだったので沢渡の人達も物々交換で薬をもらい、助かって居ました。私達は毎日学校へクワやカツサビを持って登校し出征家族の家へ勤労奉仕に行ったり、学校のグランドを耕し、南神城駅の前、貞麟寺の下のカヤ場、長谷寺の庭先等開拓して大豆をまきました。先生も勉強よりも増産が第一、と言う時代でした。学校への弁当はジャガイモか大豆かカボチャが多く入った弁当でなければお昼には弁当の検査が有りました。夏休みには西山大滝の下迄アカ草を取りに行き、目方を計って、後日配給で来るアカ草で作った洋服を目方の多い順に渡されると言う様なことでした。冬に備えてストーブの薪も全校で山へ出向いて背負出し、校庭迄運びマキ割で割って校舎の地下室へ運んで用意をしたものです。冬は村の人達がカンジキで雪を踏んだ道を着物にハンテンを着てケットをかぶり藁で作ったスッペンジョをはいて学校へ行ったものです。秋、雪が降り始めると佐野坂の県道踏切から北は、道路が閉鎖され、来春青年団で除雪する迄車両は通れませんでした。電車もなく汽車が唯一交通機関でした。今はみんな不景気だ、不景気だと言って騒いで居ますが、自分達は今本当に幸せだと思って居ます。戦争当時を思えば米味噌があれば何も心配する事は無い。こんな良い世の中になったのもアメリカのお蔭だと思います。日本が戦争に負け無条件降伏をした時は、「女は外人のなぐさみものにされた後殺され、男は皆殺と言った事で村中揃って集団自決と青木湖へ入るんだ」、と迄言ったものです。

これが逆に日本が勝って居たらアメリカと比して、こんな幸せを与えて居るだろうかと今つくづく思われます。沖縄の人達は大変だと思いますが、戦争を知らない人達が余り騒ぐのもどうかと思います。日本は無条件降伏をしたんですから、今の子供達は可哀相です。一寸何かあれば親とかＰＴＡとかシャシャリ出る。俺達の頃はイジメもあったように思うが、そんなのに負けていなかった。学校帰りなんか毎日の様に今の国道を挟んで上下で大ゲンカをしたものだった。石の投げ合い棒の振り廻し。今でも頭に石の傷が残っているくらい。学校でいじめられても負けて居なかった。60人も相手に１人で立向かったものです。其の時など小刀は飛ぶストーブのまきは飛ぶ、蒸発皿のお湯は飛ぶ、大変でした。でも先生も親も出て来なかった。今少しのびのびとした子供の世界がほしい。子供に人を見たら悪人と思えなんて教育は止めてほしいものです。

議会からの知らせ

７月５日付で、渡辺俊夫議員が一身上の都合により辞職されました。

公職選挙法により、補欠選挙は行われず今のところ、任期満了まで11名で議会を構成することになります。